

緑の教育

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心

緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力

緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体

「児童生徒主体の教育活動」を目指す

所長 平原 金智

もう十数年前の話になりますが、私が勤務していた中学校の運動会（勤務校では体育大会とは呼んでいなかった）のときの話です。運動会当日、私が生徒テントや保護者観覧テントの周りをウロウロしていると、私が担任していた生徒の保護者から呼び止められ、「先生たちは暇そうでいいね」と声を掛けられました。「ええ、生徒たちが頑張っていますから・・・」。

「生徒主体の運動会」、運動会当日は、フィールド内はもちろんのこと、編成所にいたるまで、教職員が立ち入って生徒に指導することは許されていませんでした。だから、教職員は会場の見回りや警護、応急対応などをしながら、基本的には保護者なみに生徒の応援をしていました。私に声をかけた保護者の娘は陸上部で係は出発係でしたので、自分が出る競技でも運営でも獅子奮迅の頑張り。娘の活躍ぶりと私の立ち振る舞いを比較しての声掛けだったのだと思います。しかし、その時の声掛けこそが、私が後にこの学校の教頭になったとき、先生方に度々話していたこと「運動会当日に『先生たちは暇そうでいいね』と言われることは最高の誉め言葉」なのです。

暇そうな私たちの実際はどうだったか。運動会に向けて何回も係会を行い、係の仕事内容と理想の姿の理解、リーダー育成と組織体制の構築を図ります。これでは足りないと思えば追加で資料を作成、シミュレーションを繰り返し、リーダーの生徒と試行錯誤を繰り返す。運動会当日も、運営がうまくいっているかを常に見守り、必要に応じて陰ながら係の生徒に指示を送る。運動会が終わると、競技の達成感のもとより、生徒主体の運動会ができたことへの充実感を生徒も教職員も感じていました。

さて、「学習者主体の授業」、先生方からいろいろなところで聞くのは、「学習者主体の授業のやり方が分かりません」「何か型がありますか」「自由進度学習をすればいいの」。「学習者主体の授業」については様々説明がなされていますので、理解できていないはずはありません。でもイメージを持つことは難しいのだと思います。学習者主体の授業は授業方法ではないので、イメージが湧かないのは当然かもしれません。確かなことは、「学習者主体の授業を行っている先生は暇ではない」ということです。その授業の学習内容とゴールイメージ、身に付けさせたい資質・能力、学習方法、個々の児童生徒の思考の流れなどを把握した上で、適宜、軌道修正を図りながら、授業を展開しているのだと思います。「学習者主体の授業」を一言で表すのは難しいですが、「児童生徒一人一人の思考の流れに沿って、見通しを持たせて課題解決を図らせる授業」とであると私なりに解釈しています。ですから、「学習者主体の授業実現プロジェクト」では「児童生徒一人一人の学びの姿を見取りましょう」となっているのです。児童生徒に「考えさせる」「させてみる」から始めていきましょう。

来月、前述した保護者の娘の結婚披露宴に呼んでもらっています。久しぶりにその保護者ともお会いします。「先生、暇そうでいいね」と聞かれるかもしれません。答えは決まっていますが。

「学習者主体の授業」実現プロジェクト ～子供の学びの姿から始まる校内研修推進プロジェクト～

6月29日、蒲生中学校において「学習者主体の授業」実現プロジェクトの研究授業及び授業研究が行われました。本プロジェクトは令和6年度から始まり、本年度が最終年度となります。当日は、生徒が主体的に学ぶ姿を基に、教師同士が授業改善について語り合い、学びを深める様子が見られました。

《ねらい》

- 教師集団の同僚性を構築する校内研修を契機として、学力向上に向けた組織的な取組を支援
- 教育事務所による地域の特性に応じた「学習者主体の授業」実践校区の実践を県下に拡大



教科の枠を超えて教師一人一人が学び合い、子供たちの視点から議論し合う文化を本県の学校に根付かせ、県内の教員の授業力及び児童生徒の学力の向上に資する。

《令和8年度の重点》 ～子供の学びの姿と教師の学びの姿は相似形～

「学習者主体の授業」及び本プロジェクトで行う校内研修のよさを県内に広め、地区ごとの取組を一層充実させることで、児童生徒を中心に置いた授業改善をととした学力向上を図る。

1 生徒が主体となって学ぶ授業

研究授業に向けては、授業者や教科部を中心に、学校全体で授業づくりに取り組んできました。本時は、連立方程式の学習のまとめとして、生徒一人一人が自らの目標に応じて課題や学習形態を選択しながら問題解決に取り組みました。生徒は、ロイロノートを活用して問題場면을整理したり、友達と考えを交流したりしながら、自分に合った方法で学びを進めていました。また、それぞれが選択したコースに応じて課題解決に粘り強く取り組み、学びを深める姿が見られました。

2 生徒の学びの姿から授業を考える

授業研究では、鹿児島大学廣瀬准教授をファシリテーターとして参加者が生徒の授業中のつぶやきや表情、問題解決に取り組む様子などを細かく記録した事実を基に、生徒がどのように学びを深めたのかについて多角的な視点から話し合いました。参加者は、生徒の学びの姿を共有しながら、「なぜその学びが生まれたのか」「教師はどのような支援ができるのか」を考え、自らの授業改善につなげようとしていました。生徒の学びを起点として教師が学ぶ、本プロジェクトの理念を実感する研修となりました。



【授業の様子】

3 今後の取組に向けて

モデル校区内の小学校及び実践校区の小・中学校においても同様の取組を実施する予定です。各学校が実践を積み重ねるだけでなく、校種や教科の枠を超えて学び合いながら、「学習者主体の授業」のよさを共有し、児童生徒の学力向上につながる授業改善を地区全体で進めていきます。

- 蒲生中校区・・・蒲生小学校（11月16日） 西浦小学校（2月1日）
- 牧園中校区・・・牧園中学校（9月15日） 牧園小学校（12月1日）
- 吉松中校区・・・吉松中学校（10月19日） 吉松小学校（11月30日）

【価値のある研修】

今回は、始良市立始良小学校で行われた地区特別支援教育サポート研修会の紹介をします。

1 会場校の取組への総合評価

参加者アンケートでは、始良小の取組に対して圧倒的に高い評価が寄せられた。特別支援学級・通級指導教室の実践、コーディネーターを中心とした校内支援体制、教室環境の工夫など、どの項目も「参考になった」「真似したい」という声が多数であり、モデル校としての存在感が明確に示された。

2 特に評価が高かった点

(1) 授業動画を用いた実践紹介

- ・自立活動の目標設定、活動の流れ
- ・教材の使い方が具体的
- ・「明日から使える」「目からうろこだ」という声
- ・通級指導の専門性を知る貴重な機会

(2) コーディネーター中心の校内体制

- ・誰でも支援できる体制
- ・おせっかいなコーディネーター
- ・全教職員が連携しあう姿勢
- ・チーム始良小の結束力



3 会場校の取組が参加者にもたらした学び

(1) チーム支援

- ・学校全体で支えるとはどういうことか
- ・コーディネーター中心の支援策の具体例

(3) 通級指導の理解

- ・個別の課題に応じた教材
- ・巡回型通級

(2) 自立活動

- ① 課題の把握
- ② 目標の設定
- ③ 活動の実施
- ④ 振り返り



4 参加者の声

- ・始良小の実践はすごい。真似したいことばかりだった。
- ・教室環境が整っていた。自校でも取り入れたい。
- ・悩みを共有できて気持ちが軽くなった。



5 総括

研修は、一人一人の学びを支え、その学びを実践へとつなげるためのものです。学んだことを「受ける」だけで終わらず、「生かす」ことで、子供たちの学びや未来はさらに広がります。そのためには、「学ぶ→試す→振り返る→共有する」という学びのサイクルを繰り返すことが大切です。今回の始良小学校での研修会は、このサイクルを体現した、大変意義深い研修となりました。今回の学びを各学校での実践につなげるとともに、互いに学び合い、高め合う学校づくりを、これからも共に進めていきましょう。

令和8年度 地区研究協力校一覧

学校名	研究領域 (教科等)	公開日	研究テーマ等
霧島市立 青葉小学校	学力向上 (授業研究研修)	令和8年 11月25日	「学びに向かう力」を備えた児童の育成 ～生徒指導の4つの視点を意識した「青葉モデル」の授業づくり～
始良市立 柁城小学校	学力向上 (授業研究研修)	令和9年 2月10日	自立した学び手を育てる学習指導の在り方 ～各教科等の特質に応じた学び方の習慣化を通して～
伊佐市立 曾木小学校	道德教育	令和8年 6月26日	相手の話を共感しながら聴き、考えを伝え合う児童の育成～道德科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざして～
伊佐市立 菱刈中学校	道德教育	令和8年 6月30日	学習者が主体的・対話的な活動を通し、「自分の考え」を広げる授業の工夫 ～シンキングツールの効果的な活用を通して～

文教施設等の利用の促進を！！～この夏、是非ご活用ください～

県有7つの常設展示施設において、県内にお住まいの小・中・高校生（18歳以下）は、常設展示施設等の土・日・祝日の入場料が無料となります。施設を利用し、郷土についての学びを深め、ふるさとを愛する心を育みましょう。（入場時に、年齢や住所を確認できる書類の提示が必要です。）

<始良・伊佐地区内の施設>

- ◎ 上野原縄文の森【霧島市】 ◎ 霧島アートの森【湧水町】



<その他の県内の施設>

- ◎ 歴史・美術センター黎明館【鹿児島市】
◎ 県立博物館プラネタリウム【鹿児島市】 ◎ 奄美パーク【奄美市】
◎ フラワーパークかごしま【指宿市】 ◎ 屋久島環境文化村センター【屋久島町】

【県HP>健康・福祉>青少年>青少年育成】

夏の事故防止について（熱中症・交通事故・水難事故）



大人も子供も「**正常性バイアス（※）**」を取り除こう!!

※ 脳には、「これくらいなら大丈夫」と判断し、心の平穏を保つ働きがあります。

対策①

「**我がこと**」、「**我が身にも起こりうること**」と感じても
らうよう、様々な機会を捉えて、**繰り返し啓発**しましょう!!
(夏休み中も安心メール等で日常的に注意喚起するなど)

全校児童生徒など、**全体に伝えるだけの指導で終わっていませんか!?**

※ 事故者を1人もださせないという意識をもって指導していきましょう!

対策②

過去の事故発生事例（発生要因）等を踏まえ、**具体的な指導・注意喚起**に努めましょう!!

事故発生の傾向を知っておくことで、**適確な予防策**を講じることができます!!

熱中症

- ① 事故防止について教職員や部活動の指導者等で共通認識
- ② **暑さ指数（WBGT）**に基づいて活動実施を判断
- ③ **児童生徒へ適切に指導**

学校教育活動における熱中症事故の防止について（R8.5.18、県教育委員会）

指導者が**十分徹底できていない**と考えられる対策

- 活動時間の変更、縮減
- 身体冷却（送風、水の準備）
- 暑熱順化
- 活動前の水分補給
- 健康チェック
- **WBGTの活用**

（スポーツ現場における熱中症予防に関する実態調査(2024)、日本スポーツ協会）



学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き（R6.4更新、文部科学省）

交通事故

【児童生徒への重点指導内容】

- ① 道路への飛び出しの厳禁
- ② **安全確認厳守・道路の正しい横断**
- ③ 自転車乗車時の**ヘルメット着用**
- ④ 「**自転車安全利用五則**」の徹底

令和8年度児童生徒等「交通事故0月間運動」実施要綱（R8.5.29、県教育委員会）

昨年、本県における小中学生の交通事故は小学生10月、中学生11月（R5年度は8月）に**最多発生!!**
小学生は横断中、中学生は自転車に起因する事故が最多!!
（県警による統計資料、R8.2月末現在）



子供の**水難事故の6割は、河川と湖沼池!!**
大人（家族連れ等）がいても事故数は多い!!
“大人がいるから安心”ではなく、**大人・子供共に安全管理を行うことが重要!!**
（「No more 水難事故」、河川財団）



水難事故2026（公益財団法人河川財団）

その他：声掛け、つきまとい等

声掛け、つきまとい等の地区別認知状況（R7.1～12月、県警統計資料）

順	警察署	件
1	鹿児島	210
2	始良	35
3	霧島	30
4	指宿	27
5	鹿屋	25
15	伊佐湧水	7

- 「**いかのおすし**」の励行
 - 外出時は複数行動、防犯ブザー等の携行
 - 人がいない場所・見通しの悪い場所への**接近の禁止**
 - 暗くならないうちに**早めに帰宅**
 - 「**子ども110番の家**」の積極的活用
 - 外出時の**家族への連絡**（「いつ頃まで、どこで、誰と、何を」）
 - 事案認知後の**警察署への通報**
- 「児童・生徒への声掛け等に対する安全指導の強化について（依頼）（R7.12.16付け）」

シリーズ！始良・伊佐教育事務所員が紹介する 私の元気の出る言葉②

「行ってらっしゃい。気を付けて。」

新採の時、主事の先生から、「朝ごはん食べてないでしょう。ここで食べていきなさい。」と主事室でよく大きなおにぎりをいただいた。お礼を伝えると、「息子みたいなものだから気にしないで。」と笑って話してくれた。出張の時は「行ってらっしゃい。気を付けて」と、いつも笑顔で送り出してくれた。

あれから30年以上たつが、新採の不安多き時期に、大きなおにぎりに元気をもらい、温かい言葉に安心感をいただいたことに感謝している。

特別な言葉ではなく、何気ない言葉こそ大切にしていきたい。（M・K）